

自社の強みを活かした事業・開発戦略の方針を策定

会社名 藤澤建機株式会社
 所在地 三重県伊賀市下柘植697番地
 従業員 91名
 資本金 5000万円
 売上高 20億円
 業種 製造業



支援を受けるにあたって掲げた事業上の目標

Before

- OAフロアシステム事業について、スチール中空系の薄肉化による商品力のアップとスチール木質系やスチールコンクリート系市場への展開、既設のOAフロアの支柱を再利用した修理、撤退する他社の事業承継を視野に入れた展開を図りたい。

支援を受けてできるようになったこと

After

- フリーアクセスフロアの事業方針決定とスケジュール化を定めることができた。
- スチールを中心として、木質、コンクリート、樹脂など全品種に対応できるOAフロア総合メーカーとなる方針が定まった。
- 職務発明規程案を作成することができた。

今後の事業展開の展望

Future

- 中空パネル、樹脂パネルを含むフリーアクセスフロア全体の事業方針に沿って、ビジネスモデル構築、商品開発・用途開発、マーケティングを実行する。
- OAフロア事業のフランチャイズ化の実現に向けて詳細に検討する。
- 職務発明規程に基づき、発明、提案活動を定着させ、活発化させる。
- OAフロア総合メーカーとして、営業・開発・施工体制を強化する。

重点支援を受けた事業や商材



当社は、完全リサイクル、軽量という特長や連結ロック方式でがたつきの無い快適な歩行感、OAケーブル取出しなどの設計を組み込み、スチール中空型フロアシステムではトップシェアを維持している。軽量なので一度にたくさん運搬でき、施工効率を大幅に向上できる。

当社のフリーアクセスフロアのラインアップは、中空タイプその他、モルタル充填タイプ、樹脂製置敷きタイプ、アルミダイカスト製タイプなどの商品がある。国内自社で行う製販一貫体制を構築して、高品質と安全性を維持し低コスト化を実現。スピード感のある納期対応が可能。

【出典】藤澤建機株式会社ホームページ
<http://www.mosaicfloor.fujisawa-kenki.co.jp/mortar.html>

重点支援を実施するにあたって整理した課題



取り組んだ課題	課題に取り組んだ背景・理由
事業・開発戦略	OAフロアシステム事業全体の事業戦略、ビジネスモデル及びそのアクションプランが未整備。技術優位性を有効に発揮できるブランド・販売計画がなされておらず、コーポレートブランディング戦略が策定されていない
事業・知財戦略	数件のOAフロアシステムに関する特許出願(共同出願を含め)があるが、多くは満了・拒絶査定となっており、自社の技術特徴を保護できる知財権が確保されていない。FTO調査や先行技術調査が充分ではなく、大学等との共同研究開発や事業承継に関する契約における知識・実績も不十分である
デザイン	市場ニーズに合致したデザイン改良の検討が充分になされていない
知財マネジメント体制	知財規程類が整備されておらず、社内の知財啓発・人材育成が不十分

重点支援を通じて受けた支援と支援を通じてできるようになったこと



支援を受けた事項	支援を通じてできるようになったこと	活用専門家
事業・開発戦略の構築	薄肉中空パネル、減震フロア、省施工等の開発について商品企画・開発、技術開発の方向付けができた。 施工技術の重要性に気づき、施工技術の向上を図ることができた。	中小企業診断士
事業・知財戦略の構築	薄肉中空パネル、減震フロア、樹脂フロア、脚部の高さ調整、省施工に関する特許出願の可能性を検討し、一部出願予定。	弁理士、 中小企業診断士
デザインの改良	フリーアクセスフロアのユーザー(施工者を含む)の立場で製品を検証し、デザインの方向性とブランド強化が明確となった。	弁理士
知財マネジメント体制の確立	職務発明規程案を策定することができた。規程策定に伴い、社内浸透の必要性について意識が高まり、発明活動が活発化した。	弁理士

支援チーム紹介

リーダー専門家: 中小企業診断士・1級建築士 藪田 安之

活用専門家: 弁理士

知財総合支援窓口担当者: 三重県知財総合支援窓口 杉山 早実

PO(プログラムオフィサー): 山村 正明